

音楽 1		教育出版株式会社 (17教出)
特に優れている点	1 大阪市 施策	<ul style="list-style-type: none"> ○【言語】各ページの題材の中のキーワードになる言葉を色刷りにして浮き上がらせている。 ○【言語】音楽の感じを表す言葉例が数多く紹介されている。(2年～6年巻末) ○【国際】諸外国の言葉やリズムの特徴、民族音楽が随所で紹介されている。(3年P36, 4年P40, 5年P34) ○【郷土】日本の現役演奏家や視覚に障がいのある著名な日本人ピアニストの写真が、音楽への思いとともに紹介されている。
	2 その他	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞曲の選曲はバロックから現代まで幅広く、クラシックに専門的に傾倒した曲が扱われており、また、世界的な指揮者を登用するなど、音楽を専門あるいは趣味として精通している教員にとっては魅力的な教材が選ばれている。(4年P48, 6年P26など) ○児童が見る機会の少ないオーケストラスコアが掲載されている。(6年P19)
	3 外的 要素	<ul style="list-style-type: none"> ○表紙をはじめ、絵が全般的にカラフルに描かれている。 ○色覚に対応したユニバーサルデザインを取り入れている。
	4 構成 配列	
	5 資料	○巻末の「音楽のもと」というページで学習指導要領における〔共通事項〕(音楽の構成要素やしぐみ)を説明している。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	<ul style="list-style-type: none"> ○【基礎】扱う教材及び学習活動が総じて高度である。(4年P48, 6年P26等) ○【伝統】我が国の伝統音楽の扱いでは、各領域(歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞)の活動をリンクさせる工夫に欠け、表現単一、鑑賞単一の扱いに終始している。(6年P36) ○【言語】音楽を聴いて感じたことを児童に主体的に発言させたい事柄が鑑賞のページ内に書かれており、それが逆に児童の主体的な言語活動や創造力の育成を阻めている箇所が随所に見られる(1年P44・P45, 4年P30・P31, 5年P52・P53, 6年P26・P27等)。
	2 その他	<ul style="list-style-type: none"> ○目次から、題材構成としての各教材と学習活動との関連が判別しにくい。 ○〔共通事項〕が強調されるのはよいが、1年から明らかに難解な語彙(せんりつ、といとこたえ 等)がページ上に表示されている。 ○文部省唱歌としての歌唱教材でありながら、歌詞の一部をを擬音づくりのために正しく記載していない。(2年P26)
	3 外的 要素	<ul style="list-style-type: none"> ○折り込みページが多く使われることによって、乱れた折り目が多数でき、ちぎれやすくなることが予想される。また、全開にすれば大阪市新規格の児童機の横幅をはるかに逸脱する。 ○見開きページ全面に風景写真のみが掲載され、その情景を表す主体である音楽(楽譜)が別ページにあり、音楽と映像イメージの分離が生じている。(3年P40, 4年P8, 5年P8, 6年P8等)
	4 構成 配列	<ul style="list-style-type: none"> ○題材のまとまりや教材の関連性に配慮を要する。 ○拍子の学習が2年でいきなりリズム音符を書く作業を入れるなど大変難しい活動(2年P39)が求められている。次に4年で4分の2拍子、4分の4拍子、4分の3拍子と一気に表出される(4年P18～P21)など、学習題材構成のバランスに欠ける点が見られる。
	5 資料	○「手話や足ぶみをしながら歌おう」という表記があるが、聴覚障がい者の大切な伝達手段である「手話」と、単なる身体表現である「足ぶみ」を同レベルで扱っている点に教育上の配慮を要する。手話が振付の類に捉えられる誤解を生む危険があり、きちんとした説明が必要である。(1～6年「さんぼ」)

音楽2		株式会社 教育芸術社 (27教芸)
特に優れている点	1 大阪市 施策	<ul style="list-style-type: none"> ○【伝統・郷土】我が国や郷土の伝統音楽への理解を促す学習が全学年を通して系統立てて題材設定されている。また、表現領域と鑑賞領域を巧みに関連させ（2年P52・P53, 3年P46～P48, 4年P44～P49, 5年P42～P45, 6年P40～P43）、中でも音楽づくり（おほやしのリズムや日本の旋律など）の活動は特に優れている。（2年P53, 3年P48, 4年P48, 5年P44, 6年P26） ○【伝統】全学年で国歌を最終ページに統一して配置されており、式典時をはじめリアルタイムで開きやすく日常的に親しめる。 ○【基礎】各学年とも題材の系統性がしっかりと熟慮されており、題材のねらいに応じた適切な教材の設定により、魅力ある学習活動が提示され、音楽を通じた思考・表現力を育成することができる。 ○【基礎】音楽づくりの学習は発達段階を考慮し、学年の縦の系統と領域の横の関連が綿密に組み込まれており、教員の専門性の度合いに関係なく、児童の論理的思考能力を育成するための指導ができる。（2年P53, 3年P48, 4年P48, 5年P44, 6年P26） ○【国際・郷土】我が国や郷土の伝統音楽と諸外国の音楽が、発達段階に応じ、また関連性が熟慮された記述になっており、それぞれの音楽文化について愛着や親しみが持てる構成である。（5年P40～P47, 6年P40～P43等） ○【言語】音楽の感受に対する「吹き出し」による問いかけなど、言語活動を促進させる工夫がなされている。
	2 その他	<ul style="list-style-type: none"> ○目次の見開きから、各題材での活動内容を想定しやすいうように書かれ、明快で分かりやすい。 ○題材の表示が一貫してページ左端に縦書きで表れインデックスの効果もあり、題材がすぐに把握できる。 ○【共通事項】（音楽の要素・しくみ）が表現・鑑賞教材の中で各学年の段階に即した内容で提示されている。 ○各学年とも巻末に「ふり返りのページ」を設け、各題材で学習した内容のまとめがコンパクトに再現され、各学年の発達段階に応じた分かりやすい言葉で表記されている。
	3 外的 要素	<ul style="list-style-type: none"> ○風景写真と楽譜が見開きで呼応した形で掲載され、音楽と映像イメージの一体化が図れる。 ○紙面へのユニバーサルデザインとしての配慮が随所で施されている。
	4 構成 配列	<ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領を丁寧に考察し、スタンダードな構成・配列に徹している点で安定感がある。 ○単一の題材構成の中でも、リコーダー奏・歌唱・器楽奏・音楽づくり・鑑賞と、幅広い学習活動が提示され、それに伴う多様な学習形態が組み込まれている（5年P12～P21「いろいろな音の響きを味わおう」など）。 ○鑑賞指導における楽器の扱いについて、3年で金管楽器、4年で木管楽器、5年で弦楽器、6年で管弦楽と、考え抜かれた系統的な配列になっている。
	5 資料	<ul style="list-style-type: none"> ○3年以上の巻末ページに「音楽のれきしをつくった人」というコーナーが新設され、我が国屈指の大作曲家や世界に名立たる音楽家の偉人伝が掲載されている。道徳教育にもつながる内容が加味されており、児童の興味・関心を喚起させる工夫が表れている。
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	
	2 その他	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい教材曲の導入が少ない。
	3 外的 要素	<ul style="list-style-type: none"> ○表紙の色使いやイラストが地味で、児童への興味・関心付けが弱い。 ○写真などに視覚的インパクトが少ない。
	4 構成 配列	
	5 資料	<ul style="list-style-type: none"> ○合奏教材の発展的学習に使える楽譜が少ない。